

# 神戸空襲犠牲者の慰霊碑「いのちと平和の碑」 が建立され、連合国捕虜3人の名前も刻銘

終戦から68年目となる2013年8月15日、「神戸空襲を記録する会」（代表：中田政子さん）によって募金活動が進められて来た神戸空襲犠牲者の慰霊碑「いのちと平和の碑」が神戸市中央区の大倉山公園に建立され、午前10時から除幕式が開かれました。

集まった募金額は約1000万円、当日の参加者数は「神戸空襲を記録する会」の関係者や矢田立郎神戸市長をはじめ、約800人に及びました。

神戸空襲の犠牲者は8000人以上と見られますが、現時点で名前が判明して碑に刻まれたのは1752人で、「神戸空襲を記録する会」では、今後も犠牲者を探し出して名前を刻み続けたいとのことで、情報提供も呼びかけています。

また、慰霊碑には20人の朝鮮人の名前や、1945年6月5日の神戸大空襲時、神戸俘虜病院（現在の神戸市中央区熊内町2丁目にあった）で死亡した3人の捕虜 Albert Ernest KNIGHT（英）、Samuel J. BYALL（米）、Paul Francis HAEMMELGAR（米）の名前も刻まれました。

空襲犠牲者の調査や慰霊は、本来、行政が責任をもって行うべきですが、今回、神戸市が土地を提供し、市長の除幕式への参加があったのは大きな前進と言うことができ、他の戦災都市でも同様の運動が進んでいくことが望めます。（福林徹）



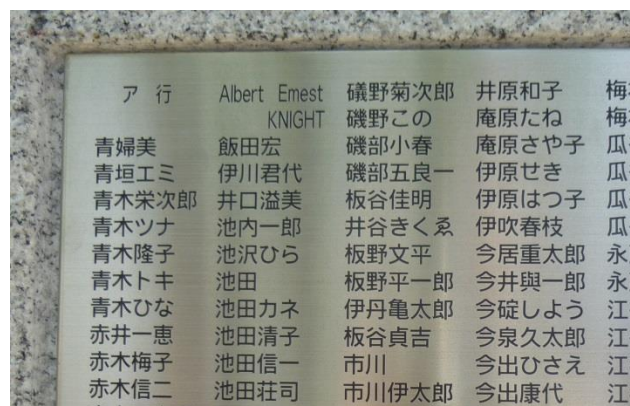
除幕式には矢田神戸市長も参加



参加者は800人に及んだ



長田高校生による合唱



Albert Ernest KNIGHT など捕虜3人の名前も